

# 日本経済新聞

10月26日

木曜日

## 互いにエール 木村 昌平

衆院議員の長島昭久君は慶応義塾高校時代の同級生だ。私はアメフト部で、長島君は応援指導部。高校時代も大学時代も大事な試合でずっとエールを送ってもらっていた。慶大4年の最後の早慶戦での勝利は同期との良き思い出の一つだ。

学生時代に応援する側だった長島君が2000年、国政に挑戦した。もちろん私たちが慶応の仲間は応援したが、最初は落選。03年に初当選した。今でも選挙になれば、講演会や街頭演説を聴きにいたり、選挙事務所に顔を出したりして、できる限りのエールを送っている。

「自由の気風は唯多事争論の間に在りて存す」という福沢諭吉先生の教えが私たちを結びつける。

マンション管理の業界に入って、「多事争論」の教えを振り返る機会が増えた。管理組合という地域社会の最小ユニットでも居住者からの要望、その対応への優先順位、将来の組合財政に関し多様な意見があり、合意形成を目指すプロセスの大切さを身に染みて感じている。

長島君は外交・安保政策に強い政治家として活躍し、国民の合意形成に奔走する。その姿を見ると、経済界に身を置く自分も奮起せねばと背中を押される。福沢先生の教えを胸に刻み、これからも互いにエールを送りたい。(きむら・しょうへい||東急コミュニティー社長)

## 交遊抄